

## ★シロイチモジヨトウ情報

ネギ等の野菜類、豆類及び花き類を加害するシロイチモジヨトウのネギでの被害及びフェロモントラップへの誘殺数が急増しています。

### 1. 発生状況

#### (1) ネギでの発生状況

6月中旬の病虫害巡回調査の結果、ネギ大株での発生量は、寄生株率、発生ほ場率、被害株率、被害発生ほ場率のいずれも例年比多くなっています(表)。

表 巡回調査結果(6月中旬)

	本年	例年
寄生株率(%)	1.3	0.1
発生ほ場率(%)	33.3	1.6
被害株率(%)	4.0	0.1
被害発生ほ場(%)	33.3	1.8

\* 葉長40cm以上の大株での調査結果

#### (2) フェロモントラップの誘殺状況

フェロモントラップへの誘殺数は京田辺市及び亀岡市で例年比多く、京丹後市では例年並となっています(図)。

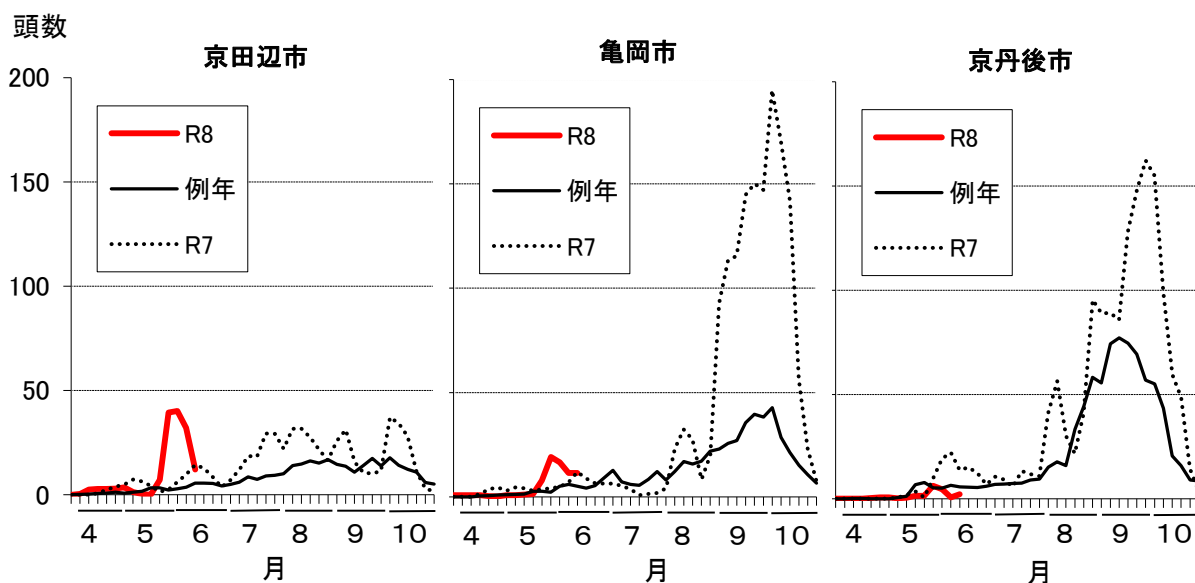


図 フェロモントラップへのシロイチモジヨトウの誘殺状況

## 2. 防除上の留意事項

- (1) 齢が進んだ幼虫はネギの内部に入り込んで殺虫剤がかかりにくくなり、薬効も低下しますので、若齢幼虫期をねらった防除が重要です。
- (2) 効果の高い殺虫剤でも連用すると薬効低下のおそれがあります。作用機構（IRAC コード）の異なる殺虫剤を組み合わせ、ローテーション散布しましょう。
- (3) 被害葉及び収穫残さが本種の発生源となるので、一箇所にまとめて積み上げ、虫の拡散防止のため、表面をビニルで被覆する等、適切に処分してください。
- (4) 寄主範囲が広く、ネギ等の野菜類、豆類及び花き類を加害するので注意してください。

### 【参考】技術資料

「シロイチモジヨトウ防除における化学農薬使用回数の削減マニュアル（2025年）」

[https://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/shiroichimojiyotou-manual\\_202502.pdf](https://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/shiroichimojiyotou-manual_202502.pdf)



注意：農薬の使用に当たっては、ラベルおよび最新の使用方法や注意事項を確認してください。また、各薬剤の使用回数を守るとともに、同一成分を含む農薬の総使用回数についても注意してください。



写真 ネギでのシロイチモジヨトウの卵塊（左）、幼虫（中）、被害株（右）